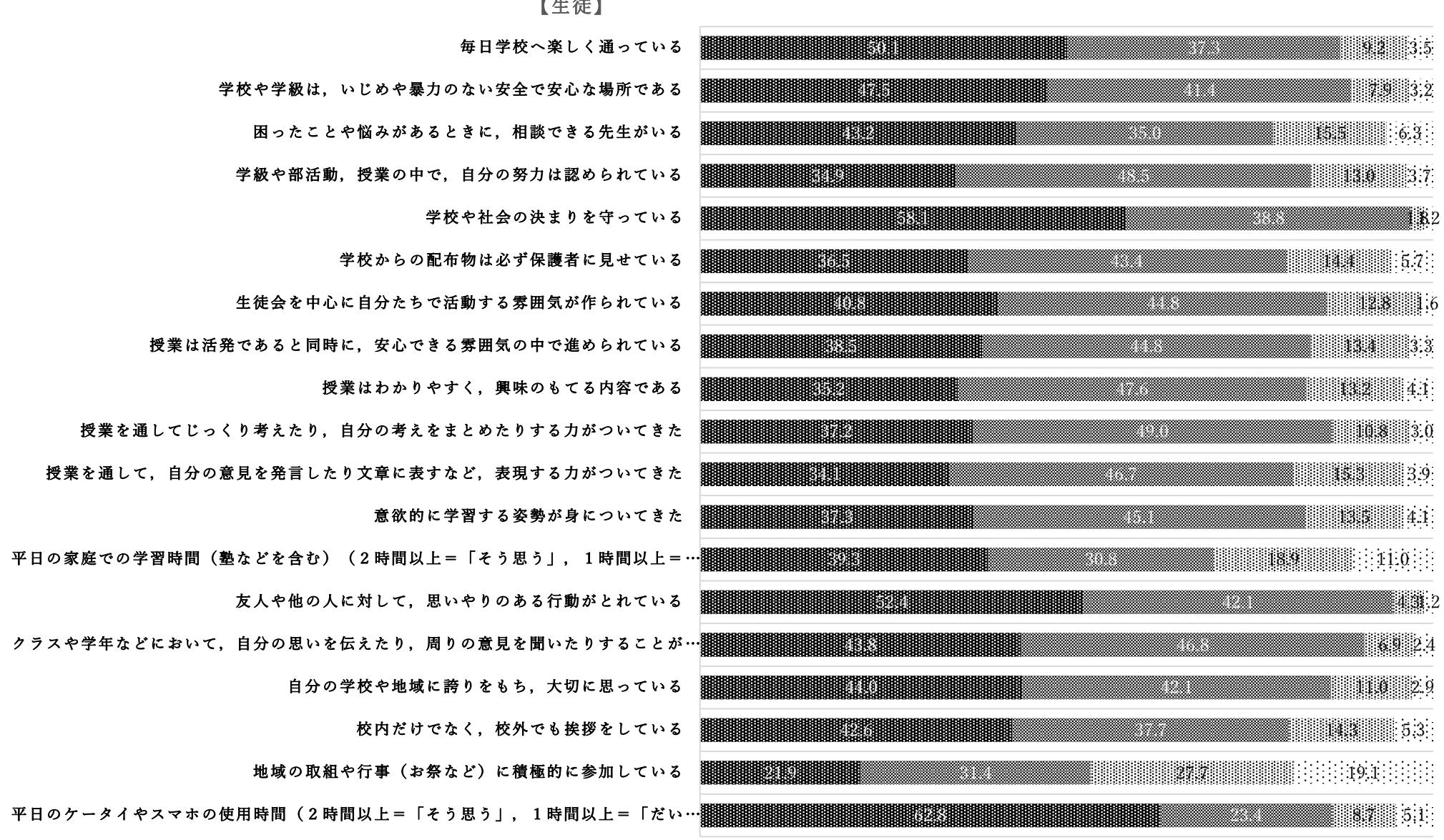
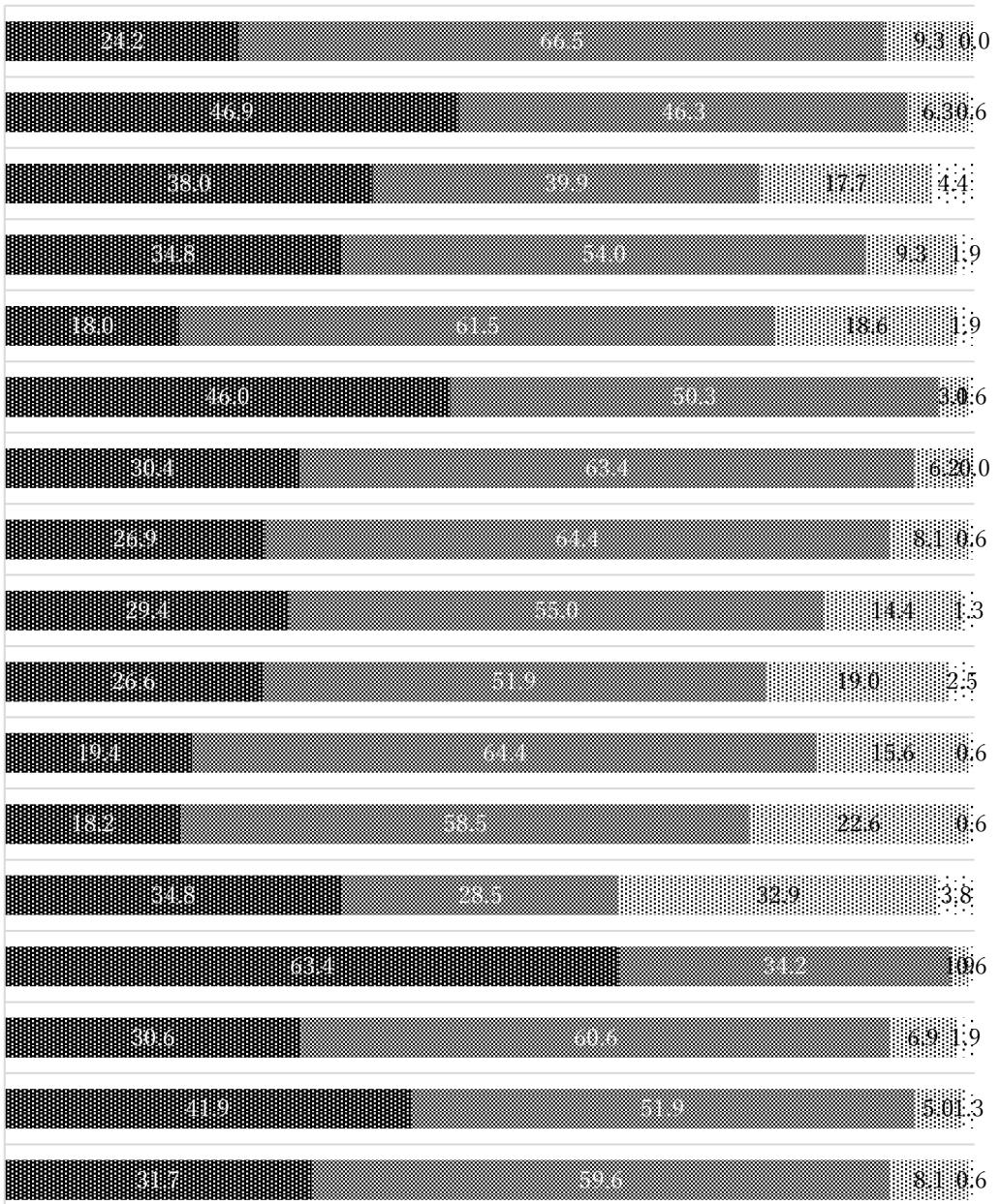


【生徒】



【保護者】

- 学校は、教育目標・教育方針をわかりやすく伝えている
- 子どもは、いじめや暴力の心配なく、楽しく学校に通っている
- 子どもは、学校でのできごとについて家庭内でよく話す
- 学校は、ホームページや学校だより等の配布物等で、生徒の様子や学習内容をよく知らせている
- 学校は、施設の整備やよりよい環境づくりに努めている
- 教職員は、保護者や地域に対して礼儀正しく節度ある接し方をしている
- 学校は、基本的な生活習慣（挨拶やマナー等）や思いやり等、道徳的な指導をしっかりと行っている
- 学校は、安全指導・保健衛生指導の徹底等、事故防止に向けた取組をしっかりと行っている
- 教職員は、生徒の実態をよく把握し、個に応じた適切な指導を行っている
- 子どもは、学習に意欲的に取り組んでいる
- 教職員は、指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行っている
- 子どもは、学校で学んだことを身のまわりの生活で生かそうとしている
- 子どもの平日の家庭学習の時間（塾などを含む）（2時間以上=「そう思う」、1時間以上=「だいたいそう思う」、1時間未満=「あまりそう思わない」、ほとんどしない=…）
- 子どもは、学級活動や行事、部活動などを通して、学校に親しい仲間がいる
- 学級や学年、学校全体で、人権を大切にしながら集団作りをしている
- 子どもは、規則正しい学校生活が送れていると思う
- 子どもは、年齢相応の社会性（人との関わり、集団行動、地域の取組や行事の参加など）が身についてきたと思う



令和4年度 後期学校評価アンケート分析

■ こころのつながり：人を成長させる学校作り【自立・貢献】

- ・「学校や社会の決まりを守っている」

生徒全体では、「そう思う」と「大体そう思う」は前期より1%向上し、96.9%が「守れている」と答え、保護者も7.7%向上し、93.8%が同様に感じておられる。ただ、生徒全体の「そう思わない」が前期より0.7%増えていることが気になる。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	53.0%	42.9%	3.6%	0.5%
	保護者	35.5%	50.6%	10.4%	3.5%
後期	生徒全体	58.1%↑	38.8%↓	1.8%↓	1.2%↑
	保護者	41.9%↑	51.9%↑	5.0%↓	1.3%↓

- ・「生徒会を中心に自分たちで活動する雰囲気が作られている」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると前期より4.4%減少し、85.6%が肯定的に答えた。後期は、生徒会主催の行事等も減少することからも、数値の減少は理解できる。しかし、前期同様に、85%以上の生徒が肯定的に捉えており、本校の規範意識は、生徒自らの行動により築かれている様子がうかがえる。それは、本校が力を入れている、生徒会を中心にした生徒による集団活動や、道徳などの心を育てる学習活動の効果が現れていると考えられる。15%が否定的であることから、生徒会を中心に、生徒の自立をはぐくむ取組を見直す必要がある。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	40.0%	49.8%	8.7%	1.5%
後期	生徒全体	40.8%↑	44.8%↓	12.8%↑	1.6%↑

- ・「学級や部活動、授業の中で、自分の努力は認められている」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると前期より0.4%向上し、83.4%が「認められている」と答えている。生徒に寄り添う教職員の姿が普段の授業や道徳、人権学習や学級活動、そして、生徒会活動などのそれぞれの場面で生きていることがわかる。しかし、「そう思わない」は、0.3%増加しており、今一度、生徒の自立した行動を認め、褒める場面を増やせるように、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」本市の教育実践を進める必要を感じている。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	30.5%	52.5%	13.6%	3.4%
後期	生徒全体	34.9%↑	48.5%↓	13.0%↓	3.7%↑

- ・「困ったことや悩みがあるときに、相談できる先生がいる」

生徒全体は、「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると前期は、86.2%の生徒が肯定的に捉えていたが8%減少し、78.2%の生徒が「相談できる」と答えている。前期より約28名の生徒が「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えており、「信頼」回復に向け、日ごろの関わりから見直す必要を感じている。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	47.1%	39.1%	9.2%	4.6%
後期	生徒全体	43.2%↓	35.0%↓	15.5%↑	6.3%↑

- ・「友人や他の人に対して、思いやりのある行動がとれている」

生徒全体、「そう思う」、「大体そう思う」をあわせると前期より0.2%減少したが、94.5%の生徒が人を思いやる行動をとっていると答えている。ただ、「そう思わない」が、0.5%増加、3名が「思いやりのある行動がとれていない」と答えている。この声を「小さな声」と捉えず、日ごろのクラスでの人間関係の構築などを活性化させ、集団を意識する取組を再度、考える必要を感じている。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	45.4%	49.3%	4.6%	0.7%
後期	生徒全体	52.4%↑	42.1%↓	4.3%↓	1.2%↑

- ・「自分の学校や地域に誇りをもち、大切に思っている」

生徒全体、「そう思う」、「大体そう思う」をあわせると前期より、3.2%減少しており、86.1%が、学校や地域を大切にしていると答えている。しかし、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒が増加しており、「自分と学校」、「自分と地域」などの考え方方が実感と結びついていない状況が見られる。来年度は、2年生でチャレンジ体験がはじまることから、キャリア教育の観点から地域や社会に視点をもたせたい。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	47.9%	41.4%	8%	2.7%
後期	生徒全体	44.0%↓	42.1%↑	11.0%↓	2.9%↑

【今後の取組について】

本校は、校是である、【自立】【貢献】を目標に、生徒のこころのつながりを大切にした、人権が保障される「豊かな心（徳）」を育成する「人を成長させる学校」作りに取り組んでいる。

本校生徒は、学校や社会の決まりを守ることを大切にし、そして、学校生活を生徒会が中心に生徒自らの規範意識の高い行動により、落ち着いた学校を築いている。それらの努力を支える、教職員の支援により、「学級や部活動、授業の中で、自分の努力が認められている」と生徒全体の83.4%（前期83.0%）が肯定的に答えている。しかし、「そう思わない」は、前期より0.3%増加しており、今一度、生徒の自立した行動を認め、褒める場面を増やせるように、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」本市の教育実践を進める必要を感じている。「困ったことや悩みがあるときに、相談できる先生がいる」の全体数値は、前期:86.2%の生徒が「相談できる」と答え、教職員と生徒との信頼関係が本校の強みであったが、後期は78.2%と8%減少しており、前期より約28名の生徒が「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えており、この声を大きく捉え、「信頼」回復に向け、日ごろの関わりから見直す必要を感じている。

改善が見られた教育活動としては、「学校や社会の決まりを守っている」では、前期：約 24 名 (4.1%) の生徒が学校や社会の決まりを守っていないと答えていたが、後期では約 18 名 (3%) と約 6 名減少しており、決まりを守ることを重要だと思い行動をしていることがうかがえる。「学級や部活動、授業の中で、自分の努力は認められている」では、前期：約 100 名 (17%) の生徒が、「自分は認められている」と思わない回答していたが、後期：約 98 名 (16.7%) と減少しており、生徒への日ごろからのきめ細やかな対応の蓄積の結果と考えられる。

この後期のアンケート結果で最も気になるのは、「困ったことや悩みがあるときに、相談できる先生がいる」の「あまりそう思わない」「そう思わない」が、前期：13.8%から、後期：21.8%に増加した点である。全体の約 128 名の生徒（1 クラスに 7 名程度）が、それぞれの困りや悩みを先生に打ち明けられずにいる現状がある。これらの生徒の状況を真摯に受け止め、さらに、生徒会活動や学級、部活動などの集団活動を通して、「個を集団で支える教育活動」を進め、学校や社会の一員としての自己有用感をもたせる必要がある。「こころのつながり」は、人を成長させることにつながる。本校の強みである、「信頼関係」を基盤に、人を成長させる学校つくりを進めたい。

自分の学校や地域に、前期より減少したが、86.1%（前期：89.3%）の生徒が誇りをもち大切に思っている。友人や他の人に對して、思いやりのある行動がとれると後期：94.5%（前期：94.7%）の生徒が回答しており、基本的な優しさや思いやりをはぐくんでいる。それは、地域行事や地域の見守りなどの“思い”や“つながり”により、豊かな感性や情操がはぐくまれていると感じる。しかし、コロナ禍により、学校や地域の行事が自粛傾向にある中で、「学校」をセーフティーネットワークとして機能させ、集団を意識した活動により、人間尊重の精神による多様な価値観を認められる姿勢をはぐくみたい。

■ 「学力・進路の保障」を目指して：【自立】

【授業改善】

- 「授業はわかりやすく、興味のもてる内容である」

「授業がわかりやすい」は、後期：82.8%（前期：89.1%）との回答があり、6.3%減少した。保護者についても、後期：83.8%（前期：84.2%）と、0.4%減少した。そして、17.3%の生徒が授業をわかりづらいと答えており、教材研究や生徒にわかりやすい発問等を考えるなど、今後の授業改善に生かしいかなければならぬ評価である。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	40.7%	48.4%	8.7%	2.2%
	保護者	16.7%	67.5%	14.9%	0.9%
後期	生徒全体	35.2% ↘	47.6% ↘	13.2% ↑	4.1% ↑
	保護者	19.4% ↑	64.4% ↘	15.6% ↑	0.6% ↘

【主体的・対話的で深い学び】

- 「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力がついてきた」

「その思う」「大体そう思う」は、前期：89.4%、後期：86.2%。3.2%の変化があるものの、「あまりそう思わない」「そう思わない」後期：13.8%の評価について、生徒が目の前の課題に対し、自分はもちろん、他者と意見交換をするなどし、課題に対して深い学びが出来るよう、授業改善を図る。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	生徒全体	37.8%	51.6%	8.5%	2.2%
後期	生徒全体	37.2% ↘	49.0% ↘	10.8% ↑	3.0% ↑

- ・「子どもは、学校で学んだことを身のまわりの生活で生かそうとしている」

「主体的・対話的で深い学び」が定着しているかを図る大切な指標である。生徒アンケート、「授業を通してじっくり考えたり、自分の考えをまとめたりする力がついてきた」の数値と保護者アンケートの「学びが家庭で生かされているのか」を問うことで、学校での学びが、身のまわりの生活で生かされているのかを問うものであり、客観的な数値として重要である。

「そう思う」と「大体そう思う」をあわせると、後期：76.7%（前期：72.4%）の保護者が学校での学びを身のまわりや生活に生かそうとする姿を見取っていただいている。後期：23.2%（前期：27.6%）が「あまりそう思わない」「そう思わない」と実感をもたれている。生徒アンケートもそうだが、学校の学び、「主体的・対話的」な学びを定着させ、そして、「深い学び」につながるように授業改善を進めたい。

		「そう思う」	「大体そう思う」	「あまりそう思わない」	「そう思わない」
前期	保護者	14.7%	57.7%	25.4%	2.2%
後期	保護者	18.2%↑	58.5%↑	22.6%↓	0.6%↓

【家庭学習】

- ・「平日の学習時間（2時間以上＝「そう思う」1時間以上＝「大体そう思う」1時間未満＝「あまりそう思わない」ほとんどしない＝「そう思わない」）」生徒・保護者共に、おおむね同じような数値になっている。「ほとんどしない＝そう思わない」と答えている生徒は、前期より2.3%減少しており、3年生の入試等による数値の変動が考えられるが、「1時間未満＝あまりそう思わない」も前期より4.8%減少しており、全体的に家庭学習の時間を作ろうとしている姿が見られた。しかし、「ほとんどしない＝そう思わない」が0%になるように家庭学習の入口は、教室の授業と考え、見直しと改善を進め、家庭学習の定着を図りたい。

		2時間以上 「そう思う」	1時間以上 「大体そう思う」	1時間未満 「あまりそう思わない」	ほとんどしない 「そう思わない」
前期	生徒全体	27.1%	35.8%	23.7%	13.3%
	保護者	24.3%	37.6%	28.3%	9.7%
後期	生徒全体	39.3%↑	30.8%↓	18.9%↓	11.0%↓
	保護者	34.8%↑	28.5%↓	32.9%↑	3.8%↓

【今後の取組について】

これらの結果を基に、どのような改善ができるのかを具体的に考えていきたい。【授業改善】は、生徒全体の後期：約102名（17.3%）の生徒が授業をわかりづらいと答えており、「全員がわかる授業」となるように授業改善を進める必要がある。特に、基礎・基本を定着させる段階では、友だちと学び合うことなどを通して、学びをあきらめないで自分の内面にしっかりと向き合うことができる学習環境が大切であり、「主体的・対話的で深い学び」などの「考える時間」が発生するような授業デザインを設計、研究する必要がある。【主体的・対話的で深い学び】では、生徒の体験や身の回りに興味関心をもたせる授業実践の定着が見られており、さらに研究、実践を図りたい。【家庭学習】は、平日の学習時間の「ほとんどしない」を0%にするためには、教室の授業に興味・関心がもて、楽しいと感じられることが大切である。それは、生徒が、今の学びに見通しがもてる授業と、何が理解できていないのかを分析し改善できる機会をもたせる授業デザインを学校全体で進めたい。